

授業の推薦、不推薦からみる授業評価

教育心理学専修・相模健人

1. 授業の概観

教育学部における教職科目 A に属する教育相談論を対象にこの授業を薦める、薦めない理由についてアンケートで授業研究を行った。授業は「学生が現代の学校におけるいじめ、不登校などの問題の対応を教育相談の観点から学ぶ。特に子どもの問題に対して、いかに学校・家庭・地域といった学校システムが連携して対応できるか、その具体的手法について学ぶ」ことを目的としている。授業前半では教育相談について概説を行い、討論を通じて教育相談にかかわる問題について考え、それ以降は事例を中心とし、子どもにとって有効な関わりについて討論を交えて考えていった。2 回、14 回目講義に実地指導講師として現職の教員に来て、講義をしていただいている。今回は必ずしも教員免許取得が卒業要件とならない総合人間形成課程、スポーツ健康科学課程、芸術文化課程の学生を対象の教育相談論で調査を行った。

2. 授業評価法

①調査対象 教育相談論後期授業における受講者 76 名のうち、最終講義に出席した 63 名

②調査時期 2017 年 2 月

③調査方法 授業最終回において「最終授業評価シート」を受講者に配布して、授業内で記入、回収した。今回対象としたのは「あなたが同級生、後輩にこの授業を薦めるとしたらどんなことを言って薦めめますか?」、「あなたが同級生、後輩にこの授業を薦めないとしたらどんなことを言って薦めませんか?」という質問である。回答は自由記述にて回答してもらった。

3. 授業評価結果

以下、回答を照らし合わせながら考察を行っていきたい。

薦める理由として多かったのは、「実際に現場の声が聞ける」、「授業に出てくる事例は先生の実体験なので、先生から深い部分まで、その問題について聞くことができる」、「すぐリアルな教員の気持ちを体験することができるし、考え方の幅が広がるから受けたほうがいいよ」といった教育現場の実情を反映している授業内容についてである。これについては前述した実地指導講師として現職の教員に来て、講義していただいている影響も多いと考えられる。

これに加えて「教師に対する考え方が変わる」「教師の本質を見つめることができる」といった教師について考えることができることを薦める理由としてあげている。「教員を目指しているなら、ためになる」「教員になりたい人にとっては、絶対に役に立つし、知っておくべきことを学ぶことができる」「教師になりたいと思うなら絶対に受けたほうがいい」といった教師を目指している人に推薦する意見や更には「教師になろうか迷っている人はこの授業を受けた方がいい」「先生になりたいと思います」といった意見も見られる。また「教師になるため・親になるため・大人になるために大切なスキルが学べるよ」といった大人として学んでほしいといった意見も見られた。

また、授業内で多く討論をしていることから「児童・生徒への対応について自分たちで考えることができる」「自分の意見を素直にぶつけることができる授業です」といった意見も多く見られた。

薦めない理由として「まったく興味がない人は受けなくてもよい」「グループの活動、発表ができないなら、教師という職に向いてないので、この授業を取らなくても良いと思う」といった興味やグループでの発表についての意見や「毎回の授業内容が濃くしんどい」「頭を使う授業です。続ける自信のない人はやめましょう」といった意見が見られ改善する余地があると考えられる。

4. 授業時間外学習の促進

授業時間外学習の促進について、本授業では毎回、就学支援システムを用いた簡単なミニレポートの提出を義務づけて行っている。

これについては薦めない理由に「毎回課題があり、期限が早いので忘れやすい」「課題が毎回あるため、忘れやすい」「大変だと思います(課題とか)」と書く学生が多いが、薦める理由として「前年の先輩たちの薦めない理由に『毎回課題があるのでしんどい』といったが全然そんなことはない。毎回の課題はすぐできるので取り組みやすい」という意見もあり、適切な授業時間外学習について今後も検討が必要である。